

2011 年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	法学部	身分	教授
氏名	中澤 秀雄		
NAME	HIDEO NAKAZAWA		

1. 研究課題

(和文) 「地域再生」の比較社会学

(英文) Comparative Sociology of “Community Regeneration”

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

「小さくても輝く自治体」における地域再生の創発的な取り組みを比較研究するべく開始された本研究では、鳥取県智頭町・秋田県小坂町・新潟県高柳町など先進事例の調査も実施し一定の教訓を得た(『平成史』所収論文を参照)。しかし研究開始一年目に東日本大震災が起り、被災地支援にエネルギーを注力するなかで、過疎によって 3.11 以前から被災していた三陸沿岸の再生問題を研究計画の中心に据える修正を行った。南北 500 キロ、400 集落に亘るといわれる被災地の現実が多様、かつ刻々と変化し、重ねて被害の深刻さから全体像把握や人間関係構築に時間を要し、状況に柔軟に対応する研究計画が必要であった。そのため当初は後方支援拠点としての奥州市や仙台市等でも情報収集をはかったが、次第に気仙沼・陸前高田に人間関係資本を築くことになり、これら 2 つの自治体で再生に向けた多くの主体の取り組みを定点観測することになった。地域紙『河北新報』の郵送購読も有益であった。この 2 年間で得た教訓や仮説は非常に幅広く、一部は“Chuo Online”や次頁記述の諸論文に提示したが、まだ全体像を提示しきれず、今後も各種媒体での成果報告を続けていきたい。

(英文)

Community Regeneration is at stake in contemporary Japan, especially after the 3.11 disaster to seek for rejuvenation strategies for depopulated hinterlands. I have been researching communities along Tohoku region coast to interview policy makers and community leaders to successfully forge some hypotheses on the regeneration process.

#### 4. おもな発表論文等（予定を含む）

<b>【学术论文】</b> （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
2012年1月 中澤秀雄「被災地支援と災害文化」『中央評論』278号: pp.49-60. (査読無)
2012年9月中澤秀雄「ポスト3.11(災間期)の社会運動と地域社会の再生」『大原社会問題研究所雑誌』647号:pp.1-14. (査読有)
2013年3月 中澤秀雄「原発立地自治体の連続と変容」『現代思想』2013年3月号(vol.41-3): 234-245. (査読無)
2013年5月 中澤秀雄「平成リスケーリングを問う意味: 戦後史における国家性スケールと地域主体」『地域社会学会年報第25集』印刷中(査読有).
<b>【学会発表】</b> （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
2012年7月7日 中澤秀雄「ステート・リスケーリングと主体のリワイアリング」地域社会学会2012年度第1回研究例会(名古屋大学).
2012年6月10日 中澤秀雄「ポスト3.11の社会運動と地域社会の再生」関東社会学会大会(帝京大学)テーマ部会報告.
2011年12月3日 中澤秀雄「ステート・リスケーリングの日本的展開」地域社会学会2011年度第3回研究例会(同志社大学).
<b>【図書】</b> （著者名、出版社名、書名、刊行年）
小熊英二ほか著『平成史』河出書房新社、2012年。
<b>【その他】</b> （知的財産権、ニュースリリース等）